

プチマムで時間給1,000円を目指して

湖北農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

プチマムは、長さ45cmの仏花専用に栽培される小菊のことで、JA北びわことJAレーク伊吹で商標登録され、大阪の卸売市場へ出荷されています。

長浜市今町営農組合では、9haの水稲と16haの小麦、大豆の協業経営をされています。その女性部5名が、稲・麦・大豆の協業経営と同じ時間給1,000円を目指し平成22年から取り組まれましたので、当課も継続して支援してきました。

【普及活動の内容】

1年目：小菊栽培の経験が無かったため、育苗、施肥や出荷の方法等の基本的な技術の習得を支援しました。開花時期がお盆より遅れ、資材経費を回収するのがやっとでした。

2年目：省力栽培ができるよう支援しましたが、台風による倒伏等の影響もあり、予定していた労働時間を大幅に超過し、時間給は525円しか支払えませんでした。

3年目：2年間の反省から改善策を明確にしました。また、リーダーを選出し、労務管理を担ってもらうことで最小人数で効率よく作業し、徹底した時間短縮が図れるよう支援しました。結果的に、5aの栽培で、時間給1,100円が支払われました。

【普及活動の成果】

「お父ちゃんたちが田んぼのことはやってくれるから、楽しく損せん程度に花でも作りたいんや」からプチマム栽培が始まりました。

しかし当課が支援する以上、楽しさを残しながらも、納得できる時間給を得ようと提案しました。

他人同士で取り組む園芸作物の栽培は、目標と責任の所在が曖昧になりがちでその結果、適期作業が遅れ、労働時間の増大を招きます。

和気あいあいと言うものの、納得できる時間給が得られなければ絶対に長続きしません。

そのためには、作業計画を立て、徹底した作業の効率化と省力化が大切です。初めからこのことを伝えると、「そこまでせんとあかんの？そんなに大変ならやめとこか」となり、プチマムの栽培そのものに拒絶反応が現れます。

女性部の和気あいあいの考えを尊重しながらも、当課の提案を少しずつ受け入れてもらえるように工夫をした3年間の普及活動でした。



集落内には3色を組んで販売